巻 頭 言

山根　隆（上席研究員　広報担当幹事）

2014 年は、名古屋産業科学研究所（名産研）にも縁の深い名古屋大学名誉教授の赤崎勇先生と天野浩名古屋大学教授の青色発光ダイオード（青色 LED）に関する業績が世界に評価されノーベル物理学賞の受賞と、喜びに包まれた年となりました。一般市民への科学技術の啓発は研究部でも重要な活動です。研究部は、上席研究員を中心に先端分野の研究を分かりやすく説明する講演会として、名古屋大学博物館との共催講演会「達人と話そう」を 2010 年からスタートさせました。2015 年には「達人と話そう－祝・ノーベル賞」という時機を得た企画で、澤木宣彦名産研専務理事（愛知工業大学教授、名古屋大学名誉教授）と、2 名の上席研究員、竹田美和あいちシンクロトロン光センター所長（名古屋大学特任教授）、水谷宇一郎名古屋大学名誉教授が LED に関連した講演を行われます。この講演会は毎年定員を上回る応募があり、一般市民の方々に高く評価されているのはうれしいことです。

さて、今回はマネジメントについて考えてみたいと思います。management を研究社のライトハウス英和辞典で引きますと、経営、管理、経営者側、という説明があります。manager は、同じく経営者、監督、（芸能人などの）マネージャー、と書かれています。スポーツの監督は英語では head coach が一般的と思いますが、野球では manager です。プレーごとに戦略を見直し、選手を動かし、最終目的である勝利に向けて采配を振るう、野球の監督を manager というのは言い得て妙と思います。そして、芸能人などのマネージャーの仕事というと、担当者のスケジュール管理がまず思い浮かびますが、仕事を見つけてくる営業や仕事を取るための企画立案も重要な仕事です。

私がマネジメントの重要性を認識したのは、大学最後の 4 年間環境安全衛生管理室長を務めた時です。名古屋大学の環境報告書の編集を手がけ、環境マネジメントシステム（目標等の設定、その達成に向けた取組の実施、評価、改善のリサイクル）の必要性を大学内に理解してもらう立場に立たされてからです。私の大学での研究を振り返ってみますと、研究に対するマネジメントもあるのだということを認識していませんでした。

私の例からもわかるように、日本では研究マネジメントという概念があまり普及していないと感じます。研究マネジメントのサイクルを考えてみますと、研究目的設定、現状の分析と文献調査などの情報収集、目的に向けた戦略の立案と実施、評価と成果の発信、のようなリサイクルモデルが考えられます。現実には、大学の研究で競争的資金の獲得が重要な割合を占めています。そうすると、研究グループの研究スケジュール管理だけでなく、研究予算の獲得のための企画立案が非常に重要になります。研究も、お金、権力、事務作業と無縁ではありません。最近のように大きな研究プロジェクトが走るようになると、運営にはそれなりの政治力、発言力、そしてマネージメントの能力が必要です。しかしながら、研究者とマネージャーを両立させることはリーダーとしての理想ですが、負担増で二兎を追うもの一兎

も得ずになりかねません。グローバル化の時代とは、優れた研究のためには研究者にもマネージャーを付けなければならない時代なのでしょうか。

研究部は上席研究員の研究活動を継続していくための各種の助成金を申請する母体機関としての役割を担っています。さらに、企業からの研究相談や技術支援に加えて、新たな共同研究の企画・申請から研究の進行管理まで、まさにマネージャー的役割も果たすことができます。大学も、優れた研究を輩出するためには、研究マネジメントシステムを考えざるを得ないとすれば、研究部が役立つことができるのではないか、と想像が膨らみます。研究マネジメントで、研究部が企業のみならず大学と連携し、優れた研究を生み出すのに協力できるようになることが私の夢です。

この文をまとめるに当たり、色々な資料に当たり、多くの人が研究マネジメントについて考察されていることを痛感しました。”一流の研究者のマネージメント、２１の鉄則”(1)は、研究マネジャーには非常に参考になると思います。また、グローバル化の時代を迎え、科学技術の分野でもイノベーションが叫ばれています。イノベーションと言えば思い浮かぶのがSteve Jobsですが、“Ten Golden Lessons from Steve Jobs”(2)、” Steve Jobs’s 10 Principles to Success That Everyone Needs To Learn”(3)では、Steve Jobsの考えが紹介され、研究とは関係ない人でも面白い内容だと思います。ところで、研究部は上席研究員の豊富な知識と経験とを活かす活動として、国内外の情勢を分析してブレークスルーとなるような「科学技術振興に関する提言活動」を行っています。2012年3月には、上席研究員有志が提言「若手研究者・技術者へのメッセージ」をホームページで公表しました。その中で、藤澤寿郎・副研究部長が”日本の「ものづくり」の復権を考える“(4)で、イノベーションと Steve Jobs について、非常に興味ある考察をされていますので、ぜひご覧いただければと思います。

参考資料

(1) http://lifehacking.jp/2008/12/management-rules-of-a-top-scientist/

(2) http://www.lifehack.org/articles/work/10-golden-lessons-from-steve-jobs.html

(3) http://www.lifehack.org/articles/productivity/10-success-principles-can-learn-from-steve-jobs.html

(4) http://www.nisri.jp/dor/proposal/index2011.html